2. 次期がん対策推進基本計画に**記載されていない活動**についてお伺いします.

2-1. 「がんによる苦痛の軽減，QOL の向上」という全体目標を達成するために今後重要になってくると思われる活動は何ですか？複数の活動が重要と考えられる場合には，このページを複製して記載して下さい.

2-2. 今後重要になると思われた理由は何ですか？

2-3. その活動を行うことでどのような社会の変化を生みだすことが期待できますか？全体目標につながることを踏まえてご回答ください.

3. **その他**,「がんによる苦痛の軽減，QOL の向上」という全体目標を達成する上で重要となる要素や，課題となる点について自由に記載して下さい.

4. 本質問紙のような内容を伺うためのインタビューを実施しております.

インタビューの対象者としてふさわしい方をご存知でしたら，下記にご記載ください.（複数名でも構いません）

※ 記載された方に研究班からインタビューをお願いする可能性がございますが，研究目的以外の目的には一切使用致しません.

お名前

ご所属

ご連絡先　電話番号

e メールアドレス

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

がん臨床研究経費

事業内通番	事業名	研究代表者	所属施設 機関名（大学、研究所、病院等）	職名	研究課題名	交付決定額（千円）
1	がん臨床研究事業	石倉　聡	順天堂大学	准教授	がん医療の均てん化に資する放射線治療の推進及び品質管理に係る研究	23,000
2	がん臨床研究事業	森　美智子	日本赤十字秋田看護大学	学長・教授	がん患者のQOLに繋がる在宅医療推進に向けた、総合的がん専門医療職のがん治療認定医、がん専門薬剤師と協働するナース・プラクティショナーに関する研究	5,800
3	がん臨床研究事業	木澤　義之	国立大学法人筑波大学大学院	講師	緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究	20,000
4	がん臨床研究事業	宮下　光令	東北大学大学院医学系研究科	教授	がん対策に資するがん患者の療養生活の質の評価方法の確立に関する研究	16,000
5	がん臨床研究事業	石川　睦弓	静岡県立静岡がんセンター研究所	部長	地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究	19,000
6	がん臨床研究事業	渡邊　清高	国立がんセンターがん対策情報センター	室長	地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究	9,200
7	がん臨床研究事業	高橋　都	獨協医科大学	准教授	働くがん患者と家族に向けた包括的就業支援システムの構築に関する研究：患者/家族・人事労務担当者・産業保健担当者の3者の視点を生かした支援リソースの開発、評価、普及啓発法の検討	13,000
8	がん臨床研究事業	明智　龍男	公立大学法人名古屋市立大学大学院	准教授	高齢がん患者の治療開始および中止における意思決定能力の評価およびその支援に関する研究	11,000
9	がん臨床研究事業	加藤　元嗣	北海道大学病院	部長・准教授	ピロリ菌除菌による胃癌予防の経済評価に関する研究	11,500
10	がん臨床研究事業	津熊　秀明	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター	がん予防情報センター長	既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究	10,800
11	がん臨床研究事業	井上　彰	東北大学大学病院	助教	バイオマーカーに基づいた肺癌個別化治療における分子標的治療薬の至適治療法を検証するランダム化第Ⅲ相比較試験	20,500
12	がん臨床研究事業	奥坂　拓志	国立がんセンター中央病院	医長	切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	22,500
13	がん臨床研究事業	木下　朝博	名古屋大学大学院	准教授	悪性リンパ腫に対する最適化されたモノクローナル抗体併用療法の開発による標準的治療法の確立	19,000
14	がん臨床研究事業	工藤　正俊	近畿大学	教授	進行・再発肝細胞癌に対する動注化学療法と分子標的薬併用による新規治療法の確立を目指した臨床試験（Phase Ⅰ/ⅡおよびPhase Ⅲ）ならびに効果を予測するbiomarkerの探索研究	30,000

15	がん臨床研究事業	佐野 武	財団法人癌研究会有明病院	部長	高度リンパ節転移を伴う進行胃癌の根治を目指した術前化学療法 ＋拡大手術法の確立	15,000
16	がん臨床研究事業	藤井 正人	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	部長	進行頭頸部がんに対する化学放射線療法を中心とした集学的治療の開発に関する研究	10,500
17	がん臨床研究事業	山下 卓也	国立がんセンター中央病院	医長	再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	16,000
18	がん臨床研究事業	山田 康秀	国立がんセンター中央病院	医長	切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療に関する研究	13,000
19	がん臨床研究事業	吉川 裕之	筑波大学大学院	教授	化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究	24,000
20	がん臨床研究事業	小野 裕之	静岡県立静岡がんセンター	部長	未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性および安全性に関する多施設共同研究	16,000
21	がん臨床研究事業	上野 秀樹	国立がんセンター中央病院	医長	膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	31,000
22	がん臨床研究事業	笹子 三津留	兵庫医科大学	教授	治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん(スキルス胃がんなど)に対する標準的治療の確立に関する研究	25,500
23	がん臨床研究事業	鈴木 健司	順天堂大学	教授	末梢小型非小細胞肺がんに対する縮小手術の有用性を検証する	33,000
24	がん臨床研究事業	田村 友秀	国立がんセンター中央病院	部長	限局型小細胞肺がんに対する新たな標準的治療の確立に関する研究	20,000
25	がん臨床研究事業	塚本 泰司	札幌医科大学	教授	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	10,000
26	がん臨床研究事業	島田 安博	国立がんセンター中央病院	科長	国内外科手術成績を基礎とした経口抗がん剤による治癒切除大腸癌術後補助療法の確立	25,000
27	がん臨床研究事業	鵜池 直邦	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター	部長	成人T 細胞性白血病(ATL)の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1 抑制メカニズムの解明に関する研究	40,000
28	がん臨床研究事業	山本 一仁	愛知県がんセンター中央病院	医長	進行期難治性B細胞リンパ腫に対する治癒を目指した自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の確立に関する研究	19,000
29	がん臨床研究事業	勝俣 範之	国立がんセンター中央病院	医長	進行卵巣がんに対する分子標的薬の国際共同・医師主導治験	24,000
30	がん臨床研究事業	塚崎 邦弘	独立行政法人国立がん研究センター東病院	科長	成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロンαとジドブジン併用療法の有用性の検証	40,500
31	がん臨床研究事業	福田 隆浩	国立がんセンター中央病院	医長	造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤のエビデンスの確立に関する研究	38,000
32	がん臨床研究事業	清水 研	国立がんセンター中央病院	医員	治療の初期段階から身体・精神症状緩和導入を推進するための研究	9,500
33	がん臨床研究事業	加藤 雅志	国立がん研究センターがん対策センター	室長	がん診療連携拠点病院の機能のあり方及び全国レベルのネットワークの開発に関する研究	9,500

34	がん臨床研究事業	石岡 千加史	東北大学	教授	東北地方のがんネットワークによるがん診療連携拠点病院の化学療法の均てん化事業	9,500
35	がん臨床研究事業	山本 精一郎	国立がん研究センターがん対策情報センター	室長	生活習慣や心理社会的要因などががん患者の予後や療養生活の質に与える影響を調べる乳がん患者コホート研究	14,000
36	がん臨床研究事業	的場 元弘	国立がん研究センター中央病院	科長	がん性疼痛治療の施設成績を評価する指標の妥当性を検証する研究	13,000
37	がん臨床研究事業	中川 和彦	近畿大学	教授	オピオイド治療効果に対する実測可能な薬理学的効果予測システムORPSの開発	17,500
38	がん臨床研究事業	松田 尚久	国立がん研究センター中央病院	医長	離島をモデルとした新しい対策型大腸がん検診システムの構築とその実現に向けた研究ー新島STUDY	11,000
39	がん臨床研究事業	戸井 雅和	京都大学大学院	教授	抗がん剤効果予測による乳がん患者の再発リスク抑制と毒性軽減および医療経済負担低減に関する検証的研究	15,000
40	がん臨床研究事業	黒田 達夫	国立成育医療研究センター	医長	小児がんの罹患数把握および晩期合併症・二次がんの実態把握のための長期フォローアップセンター構築に関する研究	19,500
41	がん臨床研究事業	池田 均	獨協医科大学	教授	神経芽腫における標準治療の確立と新規治療の開発に関する研究	18,000
42	がん臨床研究事業	足立 壮一	京都大学	教授	小児急性骨髄性白血病(AML)に対する標準的治療法の確立	18,000
43	がん臨床研究事業	宮城 悦子	横浜市立大学	准教授	地方自治体および地域コミュニティー単位の子宮頸がん予防対策が若年女性の意識と行動に及ぼす効果の実効性の検証	10,500
44	がん臨床研究事業	伊東 恭悟	久留米大学	教授	進行または再発がん、難治がんに対する標準療法確立のための研究	30,000
45	がん臨床研究事業	辻仲 政利	市立貝塚病院	副院長	非治癒因子を有する進行胃癌に対する胃原発巣切除の意義に関する国際共同研究	10,500
46	がん臨床研究事業	直江 知樹	名古屋大学	教授	成人難治性白血病における標準的治療法の確立	21,000
47	がん臨床研究事業	藤田 伸	栃木県立がんセンター	医員	臨床病期Ⅱ・Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	10,000
48	がん臨床研究事業	古瀬 純司	杏林大学	教授	切除不能膵がんに対する標準治療の確立に関する研究	10,500
49	がん臨床研究事業	松田 尚久	独立行政法人国立がん研究センター中央病院	医長	ポリープ切除の大腸がん予防に及ぼす効果の評価と内視鏡検査間隔の適正化に関する前向き臨床試験	16,000
50	がん臨床研究事業	西村 恭昌	近畿大学	教授	頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	16,000
51	がん臨床研究事業	中野 孝司	兵庫医科大学	教授	切除可能悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療法の確立に関する研究	19,000
52	がん臨床研究	岩本 幸英	九州大学	教授	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	13,500

	事業					
53	がん臨床研究事業	濱口 哲弥	独立行政法人 国立がん研究センター	病棟医長	肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線療法の確立	11,500
54	がん臨床研究事業	渋井 壮一郎	国立がん研究センター中央病院	科長	悪性神経膠腫に対するTemozolomideの治療効果を増強した標準治療確立に関する研究	13,000
55	がん臨床研究事業	堀部 敬三	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	臨床研究センター長	小児造血器腫瘍に対する標準治療と診断確立のための研究	19,000
56	がん臨床研究事業	松田 浩一	東京大学	准教授	肝癌発症リスク予測システムに基づいた慢性C型肝炎に対する個別化医療の導入及びゲノム創薬への取り組み	18,500
57	がん臨床研究事業	長島 文夫	杏林大学	准教授	高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究	9,100
58	がん臨床研究事業	小澤 美和	聖路加国際病院	医長	がん診療におけるチャイルドサポート	11,500
59	がん臨床研究事業	小松 恒彦	帝京大学	教授	より有効ながん医療政策の決定に資する、がん対策に対する医療経済評価に関する研究	11,000
60	がん臨床研究事業	榎本 隆之	大阪大学	准教授	日本における子宮頸癌予防HPVワクチンの医療経済的評価のための大規模臨床研究	14,000
61	がん臨床研究事業	内丸 薫	新潟大学 大学院	教授	HTLV-1キャリア・ATL患者に対する相談機能の強化と正しい知識の普及の促進	16,500
62	がん臨床研究事業	渡邊 俊樹	東京大学 大学院	教授	ATL克服に向けた研究の現状調査と進捗状況把握にもとづく効率的な研究体制の構築に関する研究	20,500
63	がん臨床研究事業	塚崎 邦弘	独立行政法人国立がん研究センター東病院	科長	ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	20,500
64	がん臨床研究事業	後藤 満一	福島県立医科大学	教授	精度の高い臓器がん登録による診療ガイドラインや専門医育成への活用に関する研究（24110501）	18,000
65	がん臨床研究事業	高山 智子	独立行政法人国立がん研究センター	室長	相談支援センターの機能の評価と地域における活用に関する研究	17,500
66	がん臨床研究事業	北野 正剛	大分大学	学長	進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究（24111201）	25,000
67	がん臨床研究事業	長谷川 泰久	愛知県がんセンター	部長	N0口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	23,500
68	がん臨床研究事業	加賀美 芳和	昭和大学	教授	放射線治療期間短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	22,000
69	がん臨床研究事業	後藤 功一	独立行政法人国立がん研究センター	医長	再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	23,000
70	がん臨床研究	片井 均	独立行政法人国立がん研究センター	科長	胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試	20,000

	事業				験	
71	がん臨床研究事業	平田 公一	札幌医科大学	教授	がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究ー診療動向と治療成績の変化ー	23,300
72	がん臨床研究事業	米盛 勧	独立行政法人国立がん研究センター	医員	若年がん患者を取り巻くがん診療・緩和治療支援の政策提言に資する研究	6,500
73	がん臨床研究事業	助友 裕子	日本女子体育大学	准教授	学童を対象としたがん教育指導法の開発およびその評価	6,500
74	がん臨床研究事業	東 尚弘	東京大学大学院	准教授	がん対策における管理指標群を算定するための既存データの可能性に関する研究	6,500
75	がん臨床研究推進事業	がん集学的治療研究財団	財団法人 がん集学的治療研究財団		がん臨床研究推進事業	25,738
76	がん臨床研究推進事業	日本対がん協会	公益財団法人 日本対がん協会		がん臨床研究推進事業	27,758

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 電話:03-5253-1111(代表)
Copyright © Ministry of Health, Labour and Welfare, All Right reserved.

資料7　第3次対がん総合戦略研究経費一覧

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

第3次対がん総合戦略研究経費

事業内通番	事業名	研究代表者	所属施設 機関名（大学、研究所、病院等）	職名	研究課題名	交付決定額（千円）
1	第3次対がん総合戦略研究事業	筆宝　義隆	国立がんセンター研究所	ユニット長	疾患モデル動物を用いた環境発がん初期過程の分子機構および感受性要因の解明とその臨床応用に関する研究	60,000
2	第3次対がん総合戦略研究事業	牛島　俊和	国立がんセンター研究所	部長	ヒトがんにおけるエピジェネティックな異常の解明と応用に関する研究	65,000
3	第3次対がん総合戦略研究事業	横田　淳	国立がんセンター研究所	部長	網羅的なゲノム異常解析と詳細な臨床情報に基づく、ヒトがんの多様な多段階発がん過程の分子基盤の解明とその臨床応用に関する研究	53,000
4	第3次対がん総合戦略研究事業	中川原　章	千葉県がんセンター	センター長	難治性神経芽腫の発がんと幹細胞性を制御する遺伝子の同定および解析とその臨床応用	35,000
5	第3次対がん総合戦略研究事業	安井　弥	広島大学大学院	教授	放射線障害と宿主要因からみた発がんの分子基盤とその臨床応用に関する研究	17,000
6	第3次対がん総合戦略研究事業	青木　一教	国立がんセンター研究所	分野長	ゲノム・遺伝子解析情報に基づく、臨床応用可能な固形がんの予後予測法の開発と、免疫遺伝子治療に資する研究	63,000
7	第3次対がん総合戦略研究事業	佐藤 靖史	東北大学	教授	腫瘍脈管系を標的としたがん浸潤転移とがん幹細胞制御法の確立	18,000
8	第3次対がん総合戦略研究事業	落合　淳志	国立がんセンター東病院	部長	浸潤・転移等、がんの重要な臨床的特性の病理・病態学的分子基盤の解析とそれに基づく診断・治療法の開発に資する研究	41,000
9	第3次対がん総合戦略研究事業	北林 一生	国立がんセンター研究所	部長	造血器悪性腫瘍及び転移性がんで高頻度に異常を来している遺伝子を標的とした新たな治療法の開発に資する研究	61,000
10	第3次対がん総合戦略研究事業	清河　信敬	国立成育医療センター研究所	部長	難治性小児がんに対する組織的・包括的取り組みに基づく臨床的特性に関する分子情報の体系的解析と、その知見を活用した診断・治療法の開発	22,000
11	第3次対がん総合戦略研究事業	後藤　典子	東京大学医科学研究所	准教授	がん化パスウエイネットワークが規定するがんの分子標的の解析並びに予後予測法の確立	17,500
12	第3次対がん総合戦略研究事業	宮園　浩平	東京大学大学院	教授	脳腫瘍における幹細胞性維持機構の遮断とその臨床応用	24,000
13	第3次対がん総合戦略研究事業	武藤　倫弘	国立がんセンター研究所	室長	がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究	63,000
14	第3次対がん総合戦略研究事業	清野　透	国立がんセンター研究所	部長	ヒトパピローマウイルスを標的とする発がん予防の研究	46,000
15	第3次対がん総合戦略研究事業	中村　正和	大阪府立健康科学センター	部長	発がんリスクの低減に資する効果的な禁煙推進のための環境整備と支援方策の開発ならびに普及のための制度化に関する研究	20,000
16	第3次対がん総合戦略研究事業	椙村　春彦	浜松医科大学	教授	ゲノム・遺伝子解析に基づく、胃がん・肺腺がん高危険度群の捕捉、及び予防標的分子の同定に資する研究	17,000

17	第3次対がん総合戦略研究事業	鶴見 達也	愛知県がんセンター研究所	部長	多角的解析によるEBウイルス発癌を抑制する新規薬剤開発とワクチン開発	12,000
18	第3次対がん総合戦略研究事業	森山 紀之	国立がんセンター	センター長	診断用機器及び診断方法の開発に基づいたがん診断能向上に関する研究	78,000
19	第3次対がん総合戦略研究事業	中山 富雄	大阪府立成人病センター	課長	低線量らせんCTを用いた革新的な肺がん検診手法の確立に関する研究	10,500
20	第3次対がん総合戦略研究事業	後藤田 卓志	国立がんセンター中央病院	医長	ピロリ感染率減少時代における新しい対策型胃がん検診システム構築の検証に必要なプロトコール作成と実現可能性に関する研究	11,000
21	第3次対がん総合戦略研究事業	濱島 ちさと	国立がんセンター	室長	内視鏡による新たな胃がん検診システム構築に必要な検診方法の開発とその有効性評価に関する研究	33,800
22	第3次対がん総合戦略研究事業	田村 研治	国立がんセンター中央病院	医長	トリプルネガティブ乳がんに対する創薬と治療の最適化	24,000
23	第3次対がん総合戦略研究事業	間野 博行	自治医科大学	教授	ゲノミクス解析に基づく白血病の新規分類法開発	35,000
24	第3次対がん総合戦略研究事業	大江 裕一郎	国立がんセンター東病院	呼吸器内科長	がん治療のための革新的新技術の開発及び臨床応用に関する総合的な研究	60,000
25	第3次対がん総合戦略研究事業	田村 友秀	国立がんセンター中央病院	部長	新しい薬物療法の導入とその最適化に関する研究	57,000
26	第3次対がん総合戦略研究事業	藤原 俊義	岡山大学病院	准教授	光感受性ROS産生蛍光タンパク質を発現する遺伝子改変アデノウイルス製剤を用いた新たな癌の光線力学療法システムの開発	19,000
27	第3次対がん総合戦略研究事業	松村 保広	国立がんセンター東病院	部長	新戦略に基づく抗がん剤の開発に関する研究	35,000
28	第3次対がん総合戦略研究事業	藤田 貢	愛知県がんセンター研究所	室長	がん特異的細胞性免疫の活性化を基盤とする新たな治療の開発	16,500
29	第3次対がん総合戦略研究事業	高橋 隆	名古屋大学大学院	教授	肺がんの浸潤・転移を抑制可能な分子標的の同定に基づく革新的テーラーメイド治療法の開発	20,000
30	第3次対がん総合戦略研究事業	小戝 健一郎	鹿児島大学大学院	教授	独自m-CRAベクターによる癌幹細胞の同定・標的治療技術の開発と革新的な遺伝子治療の実現	15,500
31	第3次対がん総合戦略研究事業	江角 浩安	国立がんセンター東病院	院長	QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究	68,063
32	第3次対がん総合戦略研究事業	中里 雅光	宮崎大学	教授	癌医療におけるグレリンの包括的QOL改善療法の開発研究	38,000
33	第3次対がん総合戦略研究事業	上園 保仁	国立がんセンター研究所	部長	がん治療の副作用軽減ならびにがん患者のQOL向上のための漢方薬の臨床応用とその作用機構の解明	31,000
34	第3次対がん総合戦略研究事業	内富 庸介	国立がんセンター東病院	部長	QOL向上のための、主に精神、心理、社会、スピリチュアルな側面からの患者・家族支援プログラムに関する研究	30,000
35	第3次対がん総合戦略	山口 建	静岡県立がんセンター	総長	在宅がん患者・家族を支える医療・福祉の連携向上のためのシステム構築に関する研究	22,000

	研究事業					
36	第3次対がん総合戦略研究事業	辻 哲也	慶應義塾大学	専任講師	がんのリハビリテーション ガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究	15,000
37	第3次対がん総合戦略研究事業	若尾 文彦	国立がんセンター中央病院	医長	国民に役立つ情報提供のためのがん情報データベースや医療機関データベースの質の向上に関する研究	65,000
38	第3次対がん総合戦略研究事業	西本 寛	国立がんセンターがん対策情報センター	室長	院内がん登録の標準化と普及に関する研究	23,500
39	第3次対がん総合戦略研究事業	濃沼 信夫	東北大学大学院	教授	がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究	23,000
40	第3次対がん総合戦略研究事業	中山 健夫	京都大学	教授	国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究	17,000
41	第3次対がん総合戦略研究事業	沼崎 穂高	大阪大学	教授	がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用	14,500
42	第3次対がん総合戦略研究事業	前田 浩	崇城大学	教授	蛍光内視鏡をめざした高分子型分子プローブの創	14,000
43	第3次対がん総合戦略研究事業	工藤 進英	昭和大学横浜市北部病院	教授	消化器内視鏡検査等による新しいがん検診の開発と有効性評価に関する研究	25,500
44	第3次対がん総合戦略研究事業	田中 英夫	愛知県がんセンター研究所	部長	アジア諸国でのがん予防、がん検診、がん治療向上のための調査研究	23,000
45	第3次対がん総合戦略研究事業	前佛 均	札幌医科大学	特任講師	遺伝子多型解析による乳癌ホルモン療法の有効性及び副作用予測診断システムの確立	18,500
46	第3次対がん総合戦略研究事業	原 純一	大阪市立総合医療センター	副院長	がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療体制への 適用に関する研究	10,500
47	第3次対がん総合戦略研究事業	佐川 元保	金沢医科大学	教授	低線量胸部CTによる肺がん検診の有効性評価のための無作為化比較試験	21,000
48	第3次対がん総合戦略研究事業	中村 和正	九州大学	准教授	高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	14,000
49	第3次対がん総合戦略研究事業	大内 憲明	東北大学大学院	教授	乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較研究	120,000
50	第3次対がん総合戦略研究事業	江口 研二	帝京大学	教授	緩和ケアプログラムによる地域介入研究	32,000
51	第3次対がん総合戦略研究事業	真田 昌	東京大学	特任助教	骨髄異形成症候群におけるエピゲノム修飾分子異常の解明	5,000
52	第3次対がん総合戦略研究事業	植田 幸嗣	独立行政法人理化学研究所	研究員	肺癌糖鎖標的マーカーの実用化に向けた定量的糖鎖構造変動解析システムの構築	5,000
53	第3次対がん総合戦略研究事業	馬原 淳	独立行政法人国立循環器病研究センター	研究員	リガンド固定化マイクロデバイスによる循環がん細胞診断デバイスの開発	5,000
	第3次対が	中村 貴史	鳥取大学 大学院	准教	マイクロRNAを指標にして癌を標的破壊する純和製	5,000

54	ん総合戦略研究事業			授	抗癌ウイルス製剤の開発とその臨床応用に関する研究	
55	第3次対がん総合戦略研究事業	森下 和広	宮崎大学	教授	ヒトATL及びHBZトランスジェニックATL発症マウスを用いた 比較ゲノ ム解析によるATL発症機構の解析(23120601)	12,000
56	第3次対がん総合戦略研究事業	瀬戸 加大	愛知県がんセンター	副所長兼部長	ATLの腫瘍化並びに急性転化、病型変化に関連する遺伝子群の探索と病態への関与の研究	15,000
57	第3次対がん総合戦略研究事業	村上 善則	東京大学	教授	細胞接着・運動性経路を標的としたATL細胞の浸潤、増殖抑制医薬品開発のための基礎研究	14,000
58	第3次対がん総合戦略研究事業	石田 高司	名古屋市立大学	講師	がん・精巣抗原を標的としたATLに対する新規免疫療法の開発	14,000
59	第3次対がん総合戦略研究事業	落谷 孝広	独立行政法人国立がん研究センター	分野長	脳転移性エクソソームによる前転移ニッシェの解明	25,500
60	第3次対がん総合戦略研究事業	津金 昌一郎	独立行政法人国立がん研究センターその他部局等	部長	新規バイオマーカー開発による胃がんのハイリスクグループ同定のための研究	26,000
61	第3次対がん総合戦略研究事業	齋藤 博	独立行政法人国立がん研究センターその他部局等	部長	がん死亡率減少に資するがん検診精度管理に関する研究	32,000
62	第3次対がん総合戦略研究事業	渡邊 俊樹	東京大学大学院	教授	miRNAを用いたATLがん幹細胞特異的新規治療法の開発	26,000
63	第3次対がん総合戦略研究事業	石川 義弘	横浜市立大学大学院	教授	悪性中皮腫に対する単剤多機能抗がん治療の開発(24100401)	25,500
64	第3次対がん総合戦略研究事業	三木 義男	東京医科歯科大学難治疾患研究所	教授	難治性乳癌の克服に向けた画期的治療法の開発基盤推進研究	25,500
65	第3次対がん総合戦略研究事業	関戸 好孝	愛知県がんセンター	部長	悪性中皮腫の増殖、分化に係る細胞特性に基づく新規治療法の開発	23,000
66	第3次対がん総合戦略研究事業	祖父江 友孝	大阪大学大学院大学院	教授	がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究	105,000
67	第3次対がん総合戦略研究事業	石川 俊平	東京医科歯科大学・難治疾患研究所	教授	大量構造計算とゲノムバイオマーカーを取り入れたin vivoスクリーニングによる生理的肝代謝系で効果の高いβカテニン阻害剤の開発	5,000
68	第3次対がん総合戦略研究事業	井上 純	東京医科歯科大学・難治疾患研究所	助教	オートファジー活性を指標とした癌個別化医療の分子基盤に関する研究(24100701)	5,000
69	第3次対がん総合戦略研究事業	本山 敬一	熊本大学	講師	腫瘍細胞選択的新規抗がん剤としての葉酸修飾メチル-β-シクロデキストリンの細胞死誘導機構の解明 (24100701)	5,000
70	第3次対がん総合戦略研究事業	寺倉 精太郎	名古屋大学	医員	ヒト化抗CD20抗体を細胞外ドメインとした新規キメラ抗原レセプター(CAR)遺伝子導入T細胞の作成と評価	5,000
71	第3次対がん総合戦略研究事業	久家 貴寿	独立行政法人医薬基盤研究所	研究員	キナーゼ活性化レベル測定SRM法による抗EGFR抗体薬効果予測診断法の開発(24100701)	5,000
72	第3次対がん総合戦略研究事業	仲田 興平	九州大学	助教	膵臓星細胞活性化におけるオートファジーの役割	5,000

73	第３次対がん総合戦略研究事業	稲葉 洋平	国立保健医療科学院	主任研究官	たばこ規制枠組条約に基づいた有害化学物質の規制によるたばこ対策研究	5,000
74	第３次対がん総合戦略研究事業	橋本 成世	公益財団法人 がん研究会	医学物理士	呼吸移動を伴う胸部病変に対する先進的強度変調回転照射に関する研究	5,000
75	第３次対がん総合戦略研究事業	別所 和久	京都大学	教授	医科歯科連携のチーム医療におけるオーラルケア法の開発	10,994
76	第３次対がん総合戦略研究事業	清水 千佳子	独立行政法人国立がん研究センター	研究員	乳癌患者における妊孕性保持支援のための治療選択および患者支援プログラム・関係ガイドライン策定の開発	9,947
77	第３次対がん総合戦略研究事業	堀田 知光	国立がん研究センター	理事長・総長	がん研究の今後のあり方に関する研究	5,200
78	第３次対がん総合戦略研究事業	橋本 英樹	東京大学	教授	がん対策を評価する枠組みと指標の策定に関する研究	7,000
79	第３次対がん総合戦略研究事業	がん研究振興財団	公益財団法人 がん研究振興財団		第３次対がん総合戦略研究推進事業	204,696

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 電話：03-5253-1111（代表）
Copyright © Ministry of Health, Labour and Welfare, All Right reserved.

資料8　インタビューガイド

がん対策における評価枠組みインタビュー質問　1.0 版

1. まず、既に次期がん対策推進基本計画に<u>記載されている活動</u>についてお伺いします.

1-1. がん対策推進基本計画では、「がんによる死亡の減少」、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」という 3 つが全体目標として掲げられています。これらの目標を達成するために重要だと思われる活動は何ですか？重要だと思われる活動を挙げてください。①誰が、②どこで、③どのような活動を行うのか、そして④その活動がどの全体目標の達成につながるのか、をできるだけ具体的にお教えいただければ幸いです。

1-2. その活動が重要だと思われた理由について、できるだけ詳細に教えてください。

1-3. その活動を行うことでどのような社会の変化を生みだすことが期待できるでしょうか。がん対策推進基本計画の 3 つの全体目標（「がんによる死亡の減少」、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」）につながることを踏まえてご回答ください。

2. 続いて、次期がん対策推進基本計画には<u>記載されていない活動</u>についてお伺いします.

2-1. 「がんによる死亡の減少」、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」という 3 つの目標を達成するために重要であるが、がん対策推進基本計画に記載されていない活動はありますか？活動について、①誰が、②どこで、③どのような活動を行うのか、そして④その活動がどの全体目標の達成につながるのか、をできるだけ具体的にお教えいただければ幸いです。

2-2. 上記でお答えいただいた活動が重要であると思われた理由は何ですか？

2-3. その活動を行うことでどのような社会の変化を生みだすことが期待できますか？がん対策推進基本計画の 3 つの全体目標（「がんによる死亡の減少」、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」）につながることを踏まえてご回答ください.

3. 事前に送付したロジックモデルについて、ご意見を伺います。

3-1. このロジックモデルでは、一番右側の全体目標（「がんによる死亡の減少」、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」）に到達するために必要な個別の政策目標を「政策アウトカム」として設定しています。現在のロジックモデルに加えるべき視点や政策目標がありましたら、その理由と共にお教えください。

3-2. 上記以外にロジックモデル全体を俯瞰して、自由にご意見をお聞かせください。

4. これまでにご回答いただいた内容以外に、がん対策推進基本計画の全体目標（「がんによる死亡の減少」、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」）を達成する上で重要だと思われる点や課題となる点についてお教えください。

最後に、インタビューを受ける方の基本情報についてお伺いします。

年齢　　歳代

性別　男性　・　女性

居住地　　都・道・府・県　　市

がん体験の有無　　［複数選択可］

1) 自分ががんと診断されており、現在治療中である。
　がんの種類
　最初に診断を受けた年月
　受けた治療

2) 現在治療は受けていないが、自分ががんと診断され、治療を受けたことがある。
　がんの種類
　最初に診断を受けた年月
　受けた治療
3) 家族ががんと診断されており、現在治療中である。
4) 現在治療は受けていないが、家族ががんと診断され、治療を受けたことがある。

研究班ではインタビューを継続的に実施しております。インタビューの対象者としてふさわしい方をご存知でしたらご教示いただけないでしょうか。ご紹介いただいた方に、研究班からインタビューをお願いする可能性がございますが、それ以外の目的には一切使用いたしません。

氏名：
所属：
TEL：
e メールアドレス：

資料５

がん計画における評価の活用
評価枠組み，指標の考え方

東京大学 大学院医学系研究科
医療品質評価学講座

本報告の位置づけ

がん対策を評価する枠組みと指標の策定に関する研究（H24-3次がん-指定-002）

主任研究者

東京大学	保健社会行動学	橋本英樹

分担研究者

福島県立医科大学	第一外科	後藤満一
東京医科歯科大学	医療政策情報学	伏見清秀
国立がん研究センター	がん情報提供研究部	高山智子
東京大学	医療品質評価学	宮田裕章

平成24年3月　次期医療計画の通知の中で，医療計画の評価が明確に位置づけられた．

医政発 0330 第 28 号
平成 24 年 3 月 30 日

各都道府県知事　殿

厚生労働省医政局長

医療計画について

我が国の社会保障改革については、「社会保障・税一体改革大綱（平成 24 年 2 月 17 日閣議決定）」（以下「大綱」という。）に基づき、急性期をはじめとする医療機能の強化、病院・病床機能の役割分担・連携の推進、在宅医療の充実等を内容とする医療サービス提供体制の制度改革に取り組むこととされた。

厚生労働省としては、都道府県の PDCA サイクルを効果的に機能させる取り組みを支援するため、疾病・事業及び在宅医療ごとの指標を示すこととしているが、各都道府県の取り組み等を踏まえ、都道府県が指標を用いて把握した現状の公表、新たな指標の検討や医療計画の評価手順のあり方の検討等も随時行っていくことを考えている。

評価が実現する3つのポイント

1. 患者・市民の視点に立った政策の実施
2. 限られた資源の適切な配分
3. 政策，取り組みの継続的な改善

1．患者・市民の視点に立った政策の実施

医療はその高い専門性により，提供者側と受給者に情報格差により，“医療者が患者に与え，患者・市民が医療者に任せる”という時代がこれまで長く続いてきた．

「21世紀の医療改革に向けては
患者中心主義が主軸の1つとなる」
“Crossing the Quality Chasm”
Institute of Medicine

→今後医療は，患者・市民の視点に立ってより良い医療のあり方を評価し，ステークホルダーの連携の下で政策を実施することが重要となる．

1．患者・市民の視点に立った政策の実施

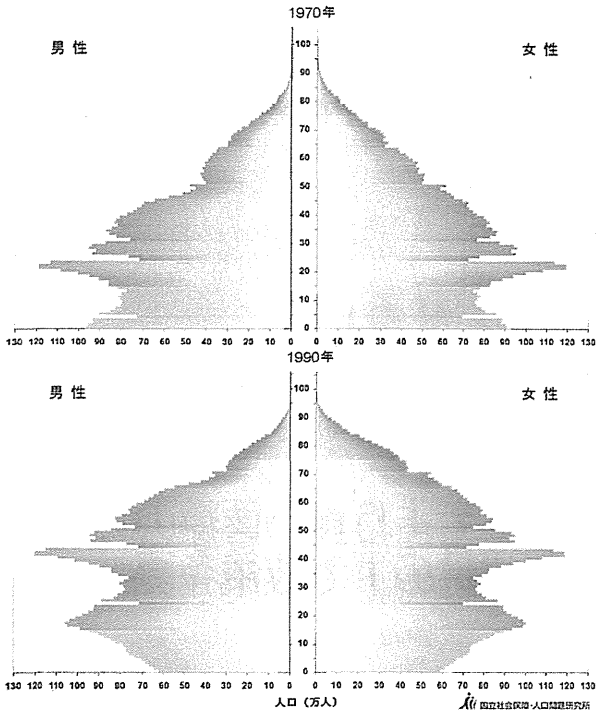
「医療の目的は医療費を削減することではなく，患者・市民のための最善のサービスを提供すること」 *Michael Porter*

→医療においては患者・市民に質の高いサービスを提供することを第1の目的として設定し，その目的のため診療報酬をはじめとした制度や医療提供システム，実践的取り組みをどのように設計・調整するべきかを検討することが重要である．

がん対策基本法において責務が定められた関係者

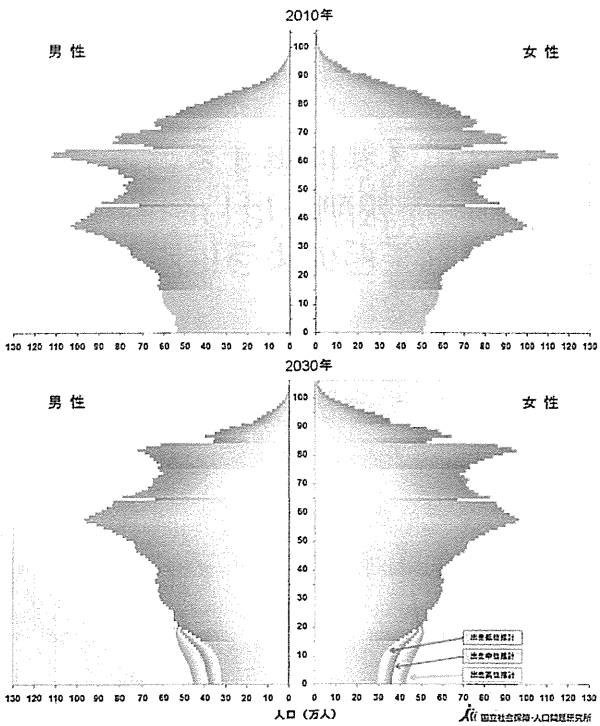
A. 国
B. 地方公共団体
C. 医療保険者
D. 国民
E. 医師その他の医療提供者

2. 限られた資源の適切な配分



日本の医療は第2次世界大戦後の高度経済成長と，多数の働き手が少数の高齢層を支えるというピラミッド型の人口構造を前提にして辛うじて成立していたものである．

2. 限られた資源の適切な配分



経済成長のスピードが変化する中，今後日本は世界でも経験されていない**超高齢化社会**に突入することになる．

限られた資源を適切に配分する上では，社会的便益と費用を客観的に比較考量することが必須である．